



男女の友情は  
成立し得るか

どうも、AUN です。

このレポートでは、『男女の友情は成立し得るか?』という、ためになるの  
かならないのかなんだかわからないようなテーマで語りたいと思います。  
もちろん、僕がわざわざこうしてレポートにするわけですから、役に立た  
ないわけではないのですが、そもそもなんでこのテーマなのかというと、

- ・最近この手の質問をメールで貰ったこと
- ・同じ時期に地元の友人とこの話題になって議論したこと

をキッカケとし、それを受けて、

## 男として凄く大事な視点に改めて立ち返ることができた

というのが、一番の理由になります。

だからそれをシェアしようじゃないか、ということですね。「男として」と  
言っていますが、少なからずの女性読者さんにも興味深く読んでいただけ  
る話になるんじゃないかと思います。

内容自体、僕のもう一人の人格である「ナカムラショウ」という男が運営す  
る AMC という通信講座で提供している数多のレポート、その中の一部のト  
ピックを抽出し、それを改変する形でおおくりします。まあ、堅苦しいかん  
じは抜きにして、時間があるときにでもリラックスして読んでいただけれ  
ばと思います。

## 【目次】

1. DNA

2. SEX

3. MAX

## 1. DNA～男女のDNAレベルの違い～

さてさて、では内容に入っていくのですが、あなた自身の考えはどうでしょうか？

### 男女の友情は成立するものだと思いますか？

「友情」をどう定義するかにもよるわけですが、とりあえず細かい話は置いておくとして、少し考えてみてください。成立するのか。成立しないのか。自分の立場を明確にして、読み進めてみると面白いですよ。

ちなみに僕は、

### 男女の友情は成立 “しない”

という立場です。

色々な意見に分かれると思うのですが、この際遠慮なく言い切ってしまうと、

## 男女の友情なんて所詮幻想であって、成立するものではない

と僕は思っているのです。

というか、成立してはいけないだろう、と。そういうものがあちらこちらで成立しているようなら、それこそ種族保存の危機じゃないかと思うのです。現代特有の稀有な事例はありますが、忘れてはいけない基本的な考え方として、男女というのは違う生き物だということです。

役割が違うのです。男性の、生物としての役割は決まっています。女性の、生物としての役割も決まっています。男はより多くの自分の子孫を残す使命を持っていますが、女性はより優秀な自分の子孫を残す使命を持っているのです。

男の場合、正直な話、ある程度自分の好みから外れてさえいなければ、相手が誰でも SEX できてしまうわけです。実際に出来ていない男は、倫理観やモラルが制御していたり、単純にその力がなかったりするだけです。「本気で好きになった女性としか、そういう行為をする気持ちは起きません！」・・・こんな気持ちの悪い男はいません。

対して女性は、自分が“優秀”だと認めた男の種しか受け入れる気持ちにはなりません。たまに、誰とでもヤレてしまう女の子もいるわけですが（そういうお仕事以外で）、あれは完全に現代病です。ストレスとか自暴自棄とかホルモンバランスの崩壊とか、色んな要素が重なってしまっていてあんな風になってるだけです。

また、男はどんなタイミングでも、何度でも、自分の種を宿すことができます。対して女性は、一度妊娠すると約 10 ヶ月間は他の種を受け入れることができません。また、「出産」という、自分自身や新しい命を危険に晒す

大変な作業を避けて通ることはできません。

## 男と女では、SEX に対するリスクやハードルが違い過ぎる

のです。

男にとって SEX は「ゴール」ですが、女性にとって SEX は「スタート」なんです。

## “恋愛感情や性的感情がまったく介入しない関係”

少し乱暴ですが、「友情」の定義にこの概念を加えるならば、男女という生物同士の友情が成立してしまうことへの違和感や危機感が芽生えてくるはず。最初は友情だったのだけど、いつしか恋愛感情が芽生えてきた、そして次第に男女の関係を求めだした。・・・こういうのは、はじめから友情などどこにもなかったということだと僕は思っています。

## 我々の中に宿る種族保存本能・生存本能に、男女の友情は必

## 要ありません。

ボクらは、そういう風に進化してきてはいないのです。

ボクらの DNA に「男女の友情」というロジックは書き込まれてないのです。男は、結局は女性を性的対象として見てしまうように出来ているし、女性は、結局は男を、優秀かどうかで判断してしまうように出来ているのです。

## 2. SEX～いつかSEXできる日が来ますように～

「男女の友情は成立する」

こう思っている人たちの頭の中は要するにこういうことだと思います。

「私たち、お互いを性的対象としてみることはできないけれど、せめて友情は育めるでしょ。だってそうじゃなきゃ、なんだか人として哀しいもの。」

わかりますか？

中には、「そんなことないよ、本当に親友だと思っているよ」という意見も出てくるかもしれませんが、でもね。「俺たちは親友だ」「そうよ、私たちは親友よ」・・・などとお互いに言っている関係であっても、それは表面上だけの話であって、実はどちらかが頑張って気持ちを抑えている、どちらかの涙ぐましい努力によって関係が保たれている（ように見える）・・・というケースがほとんどなのです。

男同士の場合、基本的に、どんなに友情が深くなっても、恋愛感情や性的感情が互いの間に介入する余地はありません。ゼロです。それ以上もそれ以下もないのです。しかし、男女がずーっつと一緒について、ずーっつとゼロ状態が続くことはありえないのです。

必ずと言っていいほど、

### どこかの時点でゼロが「1」に変わる

わけです。

1 が生まれる可能性が本当に、まったくないのであれば、その男女同士はそもそも一緒にいる意味はないと思うし（生物的な話）、「1」が生まれる可能性のある者同士であれば、その間には、そもそも友情などという概念はありえない、ということを僕は言っているのです。

## 「1」が生まれた瞬間に友情が崩壊するのではなく、「1」が生まれる可能性のある条件が揃っている時点ではじめから友情などない

という考えなのです。「友情」がスタート地点ではないのです。

「せっかく親友だと呼び合えるこの関係を壊したくない。壊してしまうのは勿体無い。すごく残念だ」・・・この気持ちがあるからこそ、「1」以上の気持ちに気付いたとしてもそれを我慢し、押し殺し、現状維持に努めてしまう。

「今さらこいつとはそんな関係になれない（・・・し、せっかく築いた今の関係を壊してしまうのは寂しい」・・・例えばこんな気持ちがどこかに在りながらも、心のどこかで男女の関係を期待しているのです。

「ありえない」なんて言い聞かせながらも、

## 「いつかそうなる日が来ますように・・・」

などと密かに願っていたりするわけですね。

これは、メンターが言っていた男女論、さらに自分自身の経験、そして数多の人たちの似たようなプロセスを見てきた経験から言っています。だから

僕にはわかるのです。

「こいつとはありえない」と「いつかそうなる日が来ますように」の狭間の、ある種の“心地良さ”

がわかるのです。

あらゆることに言えるのですが、白黒つかない、ふわふわした状態の中に居るのは、すこぶる気持ちがいい。これをある程度わかっていて、好きでやっているのなら別にいいと思います。

その心地良さを味わっていたくて、限界ギリギリまでは親友（みたいなかんじ）であえて猫を被っているのもまあ一つの大人の嗜み・・・と割り切ってもいいと思います（笑）。

でもね、本当の本当に、

「俺たちは、、

悩みや問題をいつでも相談し合える関係なんだ。

困った時はいつでも駆けつけられる関係なんだ。

互いに無償で提供し合える関係なんだ。

切磋琢磨し、向上・成長し合える関係なんだ。」

・・・なんて信じてる奴は、ちょっと気持ち悪いから。

女性なら許せます。女性には母性があるので、そういう関係はおかしいの



だと頭でわかっているけど、マインドレベルで否定できない人が圧倒的に多いです。でも、これが男なら、「このへタレがっ」と言い放ち谷底に突き落としたい気分です。

もし、今ドキッとしてしまった人は、『親友だと思っている女性に彼氏ができたなら』と考えてみてください。『親友だと思っている女性が結婚したなら』でも構いません。

それでも、「俺たちはこれまでと変わらず親友だ」というブレない気持ちで関係を維持し続けられるでしょうか。

無理だと思います。どちらかに恋人ができたり結婚したりしたら、ほとんどの場合疎遠になっていくものです。異性である自分が、そういう相手に対して頻繁に連絡なんてできないでしょう、普通。

最初はするかもしれない。だって友達だと思っているから。これまでみたく連絡くらいしないとおかしい（し、なんか気持ち悪い）わけです。だって友達だから。・・・でも、その頻度は容赦なく減っていきます。食事や飲み会の機会ができて、他の友達も交えて複数で・・・。結局、何か用事がないと連絡しないようになるし、二人で会うこともなくなる。

結局、そんな風になっていくのです。だって、男女の友情なんて元々必要ないものですから、DNA的に。相手に強力なパートナーが現れた瞬間、

「ずっと親友として良い関係で居続けていたいな（でもいつか男女の関係になれますように・・・）」

こんな、これまで密かに抱いてきた淡い期待が完全に消え去ってしまいます。その瞬間、これまで相手に抱いていた友情がただの“幻想”だった事に気づくわけです。

もし、あなたに身に覚えがなくても、あなたが友人だと思っていた相手は一生懸命気持ちを抑えながら苦しんでいたかもしれません。今言った、逆

のパターンを想像してみてください。そして、現在の彼女との関係を考えてみてください。

### 3. MAX～最高の関係の持ち方・在り方～

僕らは、『種族保存欲求』や『生存欲求』という本能レベルの使命を持っています。だからボクらの中には、「できるだけ身を危険に晒すな」という衝動と、「窮地に立たされたら仕方ない、進化しろ」という衝動が共存しているのです。どちらも重要なパターンです。

ボクらの中に在る無意識レベルの衝動や情動のパターンには必ず意味があります。意味のない無意識のパターンはありません。

男女の友情は、無意識では成立しないのです。男女の正しい在り方があると思います。それが少なくとも「友情」で表現できるような関係でないことは確かだと僕は思っているのです。

だからといって、悲観的にならないでください。絶望しないでください。ここまでの話を理解した瞬間、その先に見えてくる可能性に気づいてください。

#### ボクらのDNAが何を重要視しているか・・・

を、理解しなくてははいけません。

「女性」というフィルターを通して得られる学びや気づきなどの“価値”は、そのすべてが男にとって特別だということです。

さっき言ったこの言葉を思い出してください。

男は、結局は女性を、性的対象として見てしまうように出来ているし、女性は、結局は男を、優秀かどうかで判断してしまうように出来ています。

これは、何て言うか、ただの結果と言うか、この情報自体に価値はないと言うか、別にどうでもいいことです。僕が注目してほしいのは、そこに至るまでのプロセスです。

男性諸君には、

## 「女性に優秀だと判断される男に進化するためにできることは何だろうか？」

という視点を持って欲しいのです。

性的対象として・・・とか、優秀かどうか・・・とか、そんなこと本当はどうでもいいのです。

それを踏まえて、

## じゃあ自分には何ができるのか？

## じゃあ自分はどうなれるのか？

をちゃんと考える視点を持つこと、男としての自分の進むべき道を理解することに価値があると思います。こういう視点を持てるようになると、女性との最高の関係の持ち方や在り方が見えてきます。

僕には現在、「女友達」と建前上呼んでいる女性が複数いますが、友情なんのものはありません。カラダの関係はありませんし、別にどうする気もありませんし、「友情」という感情もありません。しかし、僕にとって彼女たちが、特別であり大切な存在であることは確かです。

## なぜなら、彼女たちを通してしか得られない「男としての」 学びや自信があるから

です。

僕が男で在り続けられるその“源泉”として、彼女たちを大切に想っているのです。女性からの尊敬や羨望、好意は、同姓の友達や後輩・クライアントのそれとは異なる、別の領域にある自信（セルフイメージ・ステータス）を育ててくれます。

## 「男が上がる」

という言葉があります。

色々な男の「上げ方」があると思うし、「上がり方」があると思います。でも、女性を通してしか上がりようがない“男”があるのです。そこが、女性に優秀だと認められるための重要なファクターだったりするのです。

「えーわからないよードラクエで喩えてくれよー」と言われても困りますし、これだけは感覚でわかるようになってほしいという気持ちもあるので、

あえてこの抽象度に留めておきます。解らない人は、しっかり頭使って考えてみてください。

ともあれ、女友達と称している彼女たちとの間に友情はないと思っているし、そんなことに興味はありません。僕が彼女たちに対して、今後、恋愛感情や性的興奮を覚えるかどうか関係ありません。彼女たちが僕のことを、現状、恋愛・性的対象として見ていようとも関係ありません。逆に、ただの友達かそれ以下にしか見ていなくても関係ありません。

彼女たちがいるからこそ、

### 「魅力的な男でなければならない」

### 「人のお手本になるような、魅力的な歳の取り方をしなくて

### はいけない」

という使命感を持つことができるし、現在の自分のレベルがどうであれ、彼女たちがいるからこそ、そうなるための努力を惜しみなくし続けることができる。これだけで僕は、恋愛感情や性的感情を抱けない女性とも、友人として、仲間として関係を築き、それを維持し続けていく理由があるのです。

もしかすると、それで短期的に傷つける人が出てくるかもしれないけど、実際にこれまでもそういう人を排出してきたのかもしれないけど、長期的にみたとき、それでも「男を」磨く事に意味があると信じています。

女性は、僕が男として成功するために、そしてそれを誰かに継承していくために必要な、とても尊い存在なのです。

スナックやキャバクラなどに行く機会があると、いい機会だと思ってそこにいる男たちをよく観察しているのですが、若い女の子にはヘラヘラして

いるけど、年齢がだいぶ上の女性は完全に無視、女としてすらみない。こういう男が必ずいます。しかも少なくない。こいつらは、若い女性だけにフォーカスしないと勿体無いと思っているかもしれません。

でも、本当は逆ですね。年齢は関係なく、努力している女性すべてにフォーカスすることで男としての色々なチャンスが見えてくるわけです。

僕が知っている魅力的な男たちは皆、

努力しているすべての女性に対して平等

です。

便宜上「平等」なんて言葉を使っていますが、無意識の領域でそれをやっているのです。ちょっとカッコつけすぎかもしれませんが、自分の“男”を上げてくれる存在に対して、いつも尊敬の念を持っているし、それが結局は、女性への貢献の形ではないかと信じています。

今回の話が納得できない人にとっては、男女問わず、まあ、すべてが詭弁に聞こえるかもしれませんね。しかし事実として、今回お話したようなことを無意識にでも理解できている男は、女性が本当に（本能で）求めている事や悦ぶ事を提供してあげられているわけです。

その結果、少なくとも、「男女の友情は成立する」と本気で信じている男よりはだ一いぶ、女性という存在が「みえて」いるし、「男として」扱われています。

だから、女性に友情を求めている場合ではないですよ。そんなものよりもっと重要な関係を女性とは築くことができるのですから。（だから AMC は「男としての成功」をスローガンとしつつ、女性を克服するところからスタートするんです。）

長年連れ添ってきたとても仲の良い老夫婦が、稀ですが世の中にはいると思います。彼らこそ、男女としての最高の在り方（MAX）を、まさに体現しているんじゃないかと思います。

僕はまだ、その領域には辿りつけそうにありませんが、そう考えたとき、ひとつそこを目指して生きていくのも悪くないなあとか思ったり思わなかったり。

まあ、ともあれ、

### “男女の友情は成立しない”

この考え方が、そのための一歩になるんじゃないかと僕は思ったので、今回はこの話をシェアしました。

では、最後まで読んでいただきありがとうございました。

Arigato! ★ Aun

## ★このレポートを読まれたあなたにお勧めの講座



### THE ATTRACTION メール講座

自然な状態で女性を引き寄せる・惹き付ける事を可能とする、男性に備わる独自の「本能的魅力」というスキルを習得することで、男としての本物の自信を獲得し、恋愛に限らず、ビジネスやその他全ての人間関係において「男としての」成功を手に入れるための無料メール講座です。

▶ [無料登録はこちら](#)

※男性限定